

各位

上場会社名 株式会社 Def consulting
代 表 者 代表取締役社長 下村 優太
(コード：4833 東証グロース市場)
問合せ先責任者 管理部管掌執行役員 岩崎 雅一
(TEL 03-5786-3800)

個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、個別業績予想を公表しておりませんでした。本日付で公表しました2026年3月期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の個別業績につきまして、前期実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 2026年3月期通期業績と前期実績との差異

	売上高	営業損失	経常損失	当期純損失	1株当たり 当期純利益
前期実績（A）	百万円 619	百万円 △427	百万円 △426	百万円 △427	円 銭 △14.60
当期実績（B）	854	△419	△2,151	△2,154	△40.78
増減金額（B－A）	234	7	△1,725	△1,726	
増減率（％）	37.8	－	－	－	

2. 差異の理由

当事業年度における売上高は、コンサルティング事業の順調な拡大とデジタル資産トレジャリー事業の寄与により、854 百万円（前年同期比 37.8%増）と大幅な増収を達成しました。

損益面につきましては、将来の飛躍的成長を見据えた人材採用や社内体制の構築等への先行投資を継続しましたが、大幅な増収効果によりこれらの費用吸収が進んだ結果、営業損失は419百万円（前年同期 427百万円）と、前期と比較して損失幅が縮小しました。

一方で、第6回、第7回及び第8回新株予約権の発行、第6回及び第7回新株予約権の行使、並びに第1回無担保普通社債の発行に伴う資金調達費用として、「株式交付費」16百万円（第3四半期累計期間14百万円）、「新株予約権発行費」15百万円（同15百万円）、「短期社債利息」10百万円（同10百万円）及び「社債発行費」0.6百万円（同0.6百万円）を計上しました。

さらに、当事業年度において開始したデジタル資産トレジャリー事業において、保有するイーサリアム（ETH）の期末時点の市場価格に基づく会計上の評価損として「暗号資産評価損」1,689百万円（同 956百万円）を計上した結果、経常損失は2,151百万円（前年同期 426百万円）、当期純損失は2,154百万円（前年同期 427百万円）となりました。

以上